(様式第4号)

介護保険運営協議会 会議概要

1	審議会名	上田市介護保険運営協議会		
2	日時	令和7年7月8日 午後1時30分から午後3時00分まで		
3	会場			
4	出席者	鳥羽委員(会長)、内河委員、大久保委員、萱津委員、柴崎委員、土屋委員、堀委員、山浦委員、竹内委員、西山委員		
5	市側出席者	長田福祉部長、西澤高齢者介護課長、高寺地域包括ケア推進係長、酒井高齢者支援担当係長、山寺高齢者支援担当係長、甲田介護保険担当係長、小岩井介護保険担当係長、小林高齢者支援担当係長、富沢高齢者支援担当係長、小山高齢者支援担当係長、介護保険担当 小山主事		
6	公開・非公開等の別	公開	一部公開	非公開
7	傍聴者	0人	記者	0人
8	会議概要作成年月日	令和7年7月10日		

協議事項等

1 回 回 (高齢者介護課長)

2 あいさつ

3 報告事項 (鳥羽会長の進行)

- (1) 介護給付費等の状況について 資料1
- (2) 高齢者福祉事業の状況について 資料2
- (3) 地域包括支援センターの運営方針について 資料3
- (4) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み状況について 資料4
- (5) 認知症希望都市宣言について 資料5
- (6) 上田市高齢者食の提供活動支援事業補助金について 資料6

報告概要

- (1) 介護給付費等の状況について (資料1を説明)
- (2) 高齢者福祉事業の状況について (資料2を説明)

(会長) ただいま事務局から説明がありましたが、御質問・御意見がありましたらどうぞ御発言ください。

(委員) 資料1について、お聞きします。例えば所得段階の構成比なのですが、他の構成比なんかを見ても、合計が100.0になる場合、99.9とか。それぞれの場合があるのですが、これ数字の基準みたいなものはないのか。資料2の方ですが、先ほどご説明があった配食サービス事業ですね。人づてにちょっとやってみたい話があり、その範囲をききたい。お試しとかできないものか。ご説明には安否確認を中心としているからデイサービスとか安否確認できなかったら、対象外っていうお話あったがそれも若干硬直化しているような気がする。もう一つ高齢者地域サロンの資料2の議会作りのところですが、設立組織として、令和5年度4団体、令和6年度2団体ですよね。基準値がこの数字となるようになっていますが、ということはこれ現在の活動実態として、活動実働はとらえていらっしゃるのですかね。現在の活動数が49、これは単に累計なのか。

(事務局) 私の方からは、先ほどの構成比ですね、小数点以下の丸めの部分をお答えさせていただきたい

と思いますが、ご指摘いただいた3の介護認定者数ですが、こちらの構成比も実際の足し上げが99.9%で、こちら100%になっていない状況にあります。私ども報告する中で、そういったことが多々ありますので、切り上げ切り捨て、もしくは端数調整を行うことがやはりございますので、そういった部分を改めて検討させていただきまして、端数調整を行う場合につきましては委員の皆様にお示しする資料につきまして端数調整が行われている旨も記載をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(事務局) 続きまして、私の方から福祉事業関係資料2の関係のご質問にお答えしたいと思います。まず、配食サービスの関係ですけれども、試験的にお試しで取ってみたいというお声もあると伺いました。委員さんご指摘の通り、主目的は安否確認というところですので例えばデイサービスに行ったりしているとこちらで食事が出たりもしますのでそういった部分で食の確保ができていますと、こういう解釈ができます。ただし家へ帰ると夕食は場合によっては自分自身で取る、あるいは何らかの配食を受ける、こういった必要は出てくるのかなというところもござりますので、こちらにつきましてはいただいたご指摘を踏まえ、今後の検討課題とさせていただきます。あとサロンの部分最後の設立助成の関係ですけれども、まず活動実態を把握しているかという点でございます。活動実態につきましては、こちらサロンは設立から2年間は活動をしていただくことを条件にやっております、2年間は追跡調査をしているところでございます。ただ、2年以降、3年目4年目について追跡をしているかという申し訳ないですが、さすがにそこまではしていない状況でございます。ですので、現状49団体これは累計でございますけれども、実際に終わった後どういった活動をされているかというのは、例えば介護予防体操ですとか地域リハビリ助成がそういった活動に手を上げていただいている団体があるというふうには伺っております。現状49団体全て活動がされているかというところにつきましては現状ではまだそこまでの把握ができていないというところでございます。

(会長) 他いかがでしょう。

(委員) 意見と案ですが、先ほどの配食サービスというのは、配食サービス事業の下に書いてあるように食生活の改善と安否確認であって、最初の頃は高齢者がやっぱりタンパク質不足、野菜中心の食事で栄養状態が悪かった。配食サービスによって、免許返納してしまったら買い物に行けないということで、配食サービスの必要性が出てきたので、今は確かに安否確認も重要とされていますが、本来は食生活の改善としての配食サービスが始まった重点的なものと思っておりますので、配食サービスは生活を支える上でとても重要なことですので、その辺を補足しておきたいと思っております。それから高齢者のさんについてですができれば民生委員さんとか地域包括支援センターでも把握していると思っておりますので、ぜひ1人暮らしで身寄りのない高齢者は高齢者だけじゃなくて身寄りのない障害者もいることもありますので、身寄り問題っていうのは単身の世帯が悪いのではなくて、単身で独居であるがために入所契約とか病院に入って、身元保証人がいないとか、たくさん問題が出てくる。ということでの身寄りの問題がありますので、これはぜひこれからある程度その同居の方の把握と生活が成り立っているかどうか訪問して把握するということは災害時のことも考えて大事ですので、ぜひ数字的にも明確にさせていただけるとありがたいなと思っております。それから独居の方、独居高齢者の方の身寄りのない方たちが、様々な社会的な問題についてどう、どう対応すればいいのかっていうのは、あとの資料にもでてきますが長野県社会福祉士会でガイドブックを作りました。関係機関の方が、それを参考にすれば、独居の方でも様々な権利が示されていくためのものがありますので、そこを数値と合わせて把握していくっていうのはこれからとても重要だと思いますので、ぜひ上田市の実態を明確にさせていただけるとありがたいと思っております。

(事務局) ご意見ご要望ありがとうございます。配食サービスの方は、半分は安否の確認、半分は栄養の補充ということでございます。要介護認定を受けるその理由となった上位ベスト3には必ず骨折が入ってまいります。栄養の補給、特にタンパク質ですね。お肉お魚をしっかり食べていただくようなことを我々も皆さんに周知をしてみたいと思っておりますが、そういったことで

も、配食サービスは一つの手段として重要だと思っております。それと独居の方でございますが、高齢者の独り身で年金もそれほど多くない。そのような方々が現実に相談に乗りながら関わっている方々がいらっしゃいます。アパート契約であると契約保証人がいないので、新たな契約ができないというような問題を我々も一緒に抱えて、なかなか答えが見つからなくて、困っているというのが実情です。こういった案件は、これからますます増える状況にございますので、我々もどうしたらいいのかという、おそらく上田市だけの制度だけでは賄えない壁がございますので、国の方にも要望しながら、そういった方々でも安心して生活ができる、住居確保できるような環境を整えていかれるように我々も考えたいと思います。

(会長) 私の方から一つ意見を言わせていただきたいことがございまして、配食サービスのことをとても大事だと思うことはとても素晴らしいと思いますが、医師の立場で言わせてもらいますと、難しいのは、栄養豊富でバランスの取れた食事が提供されているのですが、食べてくれるかどうかという問題が必ず出てきます。実際問題介護を受ける方になりますと、認知の問題も表れてきます。平日、配食サービスを受け、大変美味しいとおっしゃるのだけど、半分も食べない。どうしたらいいだろうか。ご飯が提供されるだけではなく、それを食べてくれるかどうかというところで、やはり訪問介護とバランスを取らないと、きちんと食べるっていうのは非常に難しいかなと。質問としまして配食サービス、いろんな業者が出入りしているかと思いますが、その中身の点検はされているのでしょうか。

(事務局) メニュー等も我々入手しておりまして、この月は何日どんなものが配食されているというものを確認しております。また年に1回程度ですけれども、各事業者さんからのお弁当配達されるお弁当を当我々職員お願いして取っておりまして、もちろんお金を払うのですが、試食もさせていただきます。刻み食を作っていたりだとか、塩分の濃度に気をつけていたりだとか、美味しいものというところで工夫をさせていただいているのが、我々食べても思いますので、我々も実際に配食サービスを取っていただいている方々にできるだけどんなふうにしたら食べていただけるのかというのを、一緒に考えていければと、それが一つの責務であると今、お話をお聞きしながら思ったところでございます。

(会長) ありがとうございます。次の報告事項3番、4番に参りたいと思います。

(事務局) (3) 地域包括支援センターの運営方針について (資料3を説明)
(4) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み状況について (資料4を説明)

(会長) ありがとうございます。ただいま説明ありましたが、委員の皆さん、ご質問ありましたら挙手の方よろしくお願いたします。

(委員) 資料の3のところですね、要介護認定を受けている障害高齢者の日常生活自立度、裏面の認知症高齢者の日常生活自立度ですが、主治医の意見書とそれから調査員の調査結果と、これ当然差異が出る場合があるのですが、どちらを採用しているということでしょうか？

(事務局) 基本、医師の意見書の方を優先して、審議の結果に結びつけているというふうには聞いております。実際の差異は、上田地域広域連合の審議会の中で議論の上、結果を確定しておりますので、必ずどちらか一方というふうには、おそらくはなっていないかと思いますが、医師の意見書の方を優先して取り上げていただき、判定に影響が出ているというふうには思っております。

(委員) 4ページの地域包括支援センターの相談件数のところ認知症という欄があります。これはまず、ご本人というよりもやっぱりご家族からの相談というケースが多いのかなと思うのですが、どのような対応とか支援を実際に繋がっていくのかなというところですか。この実態はどのようなものか。

(事務局) おっしゃる通り、やはりご自身、また家族の方々が認知症にかかっているのではないかという心配はあっても、表にはなかなか出てこないというのが実際の社会情勢であると思っております。家族も認知症の者がいるということ、なかなか表に出せない。それが壁になって症状が進行してしまうとか、地域で暮らしていくことが壁になってしまうところに繋がっていると思いますので、そういったことを少し変えていくようなことを、我々今取り組んでおまして、これから力強くやっていかななくてはならないという認識をしております。

(委員) 資料の3ですが、自己評価表ですね、7ページからです。事業自己評価表が出ているのですが、自己評価っていうのは結局、「5」は良い取り組みをやったというようなものだと思いますが、逆に「2」っていうのが、極端に低い評価をなされたということは、それなりの理由があると思うので、内部資料としてでも結構ですが共有していただき、何らかの問題があったらできるだけ早い段階で解決していただきたいと思います。要望です。

(事務局) 毎年、地域包括支援センターの所長であるとか職員であるとか、個別に年に1回2回、必ず皆さん集めて情報共有、研修を行いながら状況を共有しております。その中ではお互いの困難な事例等を持ち出して、情報共有などもしておりますが、自己評価が低かったところの問題点をみんなで共有してこれからの活動に役立てていってもらいたいというのは確かに非常に重要なことだと思いますので、そういったポイントにも当てた対応になるように工夫してまいりたいと思います。

(委員) 2点お聞きしたいことがあって、地域包括支援センターの4ページの総合相談の権利擁護総合相談の延べ件数の権利擁護というところには、虐待相談も入っているのでしょうか。

心配な虐待についてはできるだけ市の方で把握して、包括と連携をしていただきたために数字だけでも見える化していただけるとありがたいなっていうのが1点です。もう一点は6ページのところで、地域包括支援センターに配属している3職種がスキルアップをしているところの、私は社会福祉士会の会員ですので、これ月1回1ヶ月に1回開催しているとなっておりますが、どのような会なのかということをお教えいただきたいと思います。

(事務局) ありがとうございます。総合相談の中の権利擁護の件数に虐待の件数が入っているかということですが、包括支援センターの方からもいろいろ相談が市の方に上がってきまして、また詳しく調べまして、お示しするような形にしていきたいと思っております。コアメンバー会議等の虐待の件数も最近上がっていきまして、10件ぐらいは市の方で判断するような虐待も起きていくような状況であります。具体的な内容はちょっと申し上げられないのですが、件数で申し上げられるようだったら入れていきたいと思っております。社会福祉士会の研修関係ですけれども、包括に所属している社会福祉士さんの集まりで、それぞれひと月に1回研修を行っているものです。記載の仕方が間違っていました。

(会長) ここで一旦終了といたしまして、その他のところを事務局に戻したいと思っておりますが、皆さんよろしいでしょうか。ありがとうございます。報告事項につきましては、審議をいただいたということでお返しいたします。

(事務局) 委員の皆様におかれましても、それぞれの議題報告にご審議いただきまして誠にありがとうございます。次第の4のその他でございますが、事務局から2点ご報告、ご紹介させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(事務局) (5) 認知症希望都市宣言について (資料5を説明)

(事務局) (6) 上田市高齢者食の提供活動支援事業補助金について (資料6を説明)

(事務局) 時間の都合上、簡単な説明で大変恐縮ではございますが、担当より資料の5と6についてご説明申し上げましたが、この件につきましてご質問ですとかご意見ございますでしょうか。

(委員) 資料6の説明いただきました高齢者の食の提供活動ですけれども、この対象者というのは地域の集いの場を運営する団体ということになりますと、例えば、自治会なんかも当然よろしいということですね。こちらの補助金の対象経費というのが、人件費、それから保険料、光熱水費ということで、食材については対象と考えてらっしゃいますか。

(事務局) 主催していただける団体は、自治会でも結構でございます。人の胃の中に入る食材の部分につきましては、それぞれ食べていただける方にご負担をいただきたいと基本は考えております。

その他何か全体を通じましてご質問やご意見ございますでしょうか。

この報告資料の5と6につきましても終了とさせていただきます。それでは本日の協議内容は全て終了いたしました。以上をもちまして、令和7年度第1回上田市介護保険運営協議会を閉会させていただきます。

- * 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政管理課へ提出してください。
- * 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。